

令和7年10月16日

スマート農業技術勉強会『北陸地域の水田作における各種スマート農機を導入した実証事業の
振り返りと今後の方向』開催要領

農研機構 中日本農業研究センター
みどり戦略・スマート農業コーディネーター
竹内博昭

1. 趣旨

近年、農業者の高齢化と人手不足が深刻化しており、北陸地域を含む全国で担い手への農地の集積が急速に進みつつある。そのため、農地の効率的な生産管理が課題となっており、その解決方法として、スマート農業技術の活用が期待されている。これまで農研機構は、「スマート農業実証プロジェクト」等各種事業の実証コンソーシアム支援など、スマート農業を普及するための取り組みを進めてきた。水田作では、耕起から収穫まで各種スマート農機があり、実証事業の中でも多くのスマート農業技術が導入され、その効果が実証されている。

今回の勉強会では、過去の水田作実証コンソーシアムの取り組みの経営への効果を総括するとともに、終了課題と実施中課題の実績と取り組みについて情報共有する。そしてこれらを踏まえ、スマート農業技術の普及に向けての今後の課題を意見交換する。

2. 主催：農研機構 中日本農業研究センター

3. 開催日時：令和7年11月20日（木）13：00～15：45

4. 開催場所

公益社団法人富山県農林水産公社 スマート農業普及センター（富山市婦中町東本郷101）

5. 開催内容

1) 開会・挨拶

中農研所長 橘田和美

2) 話題提供(いずれも仮題)

- ・水田作のスマート農業実証事業について概要の振り返り

中農研みどり戦略・スマート農業コーディネーター 竹内博昭

- ・基調講演：経営改善シナリオに対応したスマート農業技術の導入

株式会社ファーム・マネジメント・サポート代表取締役 梅本 雅

- ・水田作 R1 旧コンソーシアムのスマート農業の取り組み

実証事業旧コンソ 山崎 透(高野生産組合代表理事)、

小林昌宏(同 営農統括部長)、坂田廉太郎(上越市農林水産部主事)

- ・能登農業復興スマート農業技術研究コンソーシアムの取り組み計画

SOP 作成研究 R7 コンソ 植松 繁 (石川県農業総合研究センター専門研究員)

3) ディスカッション：水田作のスマート農業プロジェクトの振り返りと今後の方向

登壇者：梅本氏、実証事業旧コンソ山崎氏、小林氏（坂田氏は壇下最前列）、
R7 コンソ植松氏、R7 コンソ宮崎数馬氏（煌輝奥能登（株）代表取締役）

モデレータ：中農研水田利用研究領域長 白土宏之

4) 施設紹介：スマート農業普及センターについて

富山県農林水産公社スマート農業普及センター所長 川口祐男

5) 閉会・挨拶

中農研水田利用研究領域長 白土宏之

※閉会后、希望者（申込時に募る）は公社案内による構内の見学へ

6. 参集範囲

生産者・農業法人、農業団体、民間企業、行政・普及機関、研究機関、農林水産省、農研機構、
その他主催者が認める者。

7. 定員

50 名

8. 参加申込

中農研 HP に置く開催案内の参加申込フォームから申し込む

参加費：無料

申込期限：11 月 14 日（金）定員になった時点で申込受付終了

9. 連絡先

農研機構 中日本農業研究センター 竹内博昭

TEL：025-526-3240、e-mail：sh-carc-smart@naro.go.jp